

産学交流企画2022 活動報告

島根県技術士会 青年部

島根県技術士会青年部では、今回で16回目となる産学交流企画を開催しました。今年は久しぶりに対面での開催でした。試験的な取り組みとして新入社員も交え、参加した島根大学と松江高専の学生、技術士の交流を深め、ロジカルシンキングを用いた課題解決に取り組みました。

企画概要

テーマ	これなら島根代表がほぼ日本代表！？ そして、まだ見たことのない世界を見に行ける！？ 島根〇〇ワールドカップ！どんな大会を開催する？
日時	2022年12月3日（土） 13時から17時
内容	開会（挨拶）、スケジュール説明 第1部（自己紹介と社会人への質問） 自己紹介：自己紹介（社会人になるときに不安だったこと。） 社会人への質問、学生への質問 技術士の課題解決手法の説明 第2部（課題解決、プレゼン資料作成） グループワーク プレゼン 今日のまとめ、閉会
場所	島根大学大学会館2F集会室

当日の概要

去年一昨年とオンライン開催が続きましたが、今年は対面で開催することにしました。時代に逆行して、あえてアナログでの実施とし、PCを持参しませんでした。

デジタル技術を用いてアイデアを魅せる方法は、もはや学生の方が得意です。そこで技術士としては、昔ながらのアイデアを創り出しやすい方法を用いて、ロジカルシンキングによる課題解決プロセスについて、学生や若手社員に実体験してもらうことを目指しました。

模造紙・ペン・付箋だけのテーブルを前に、各班とも最初の1時間くらいを使って島根の特徴についてのブレインストーミングを行いました。そして選ばれたテーマは「神話」「観光」「出雲弁」。これらをワールドカップとして、どのような大会にするかを深めていきます。

各班の白熱した議論を見ながら、審査員席でも急きょアイデアをどのように評価したらよいか付箋を取り出してディスカッションを行いました。3つの評価を「島根らしい独自性」「競技としてのルールの完成度」「世界大会として各地での展開しやすさ」とし、プレゼン結果から各賞を表彰しました。

はじめのうちは技術士がディスカッションを先導していましたが、最後のまとめの段階では学生が中心となっている姿が印象的でした。また若手社員にとっては社外の技術士との交流する機会となりました。これを機会に、技術士を身近なものだと感じてもらい、将来的に技術士を目指すモチベーションにつながることを期待しています。

参加者の声

- 学生さんの対応力。コミュニケーションや、発表のスキルが非常に高いと感じました。
- 学生さんの方が、より学習されており、教えられた。
- 少人数でグループワークをし、最後にプレゼン発表をしたが、準備時間が短い中でも発表の形まで持っていけるように技術者の方がタイムスケジュールなどを組んで話を進めていった点が印象に残った。
- みんなで考えて進めていくという点が印象に残りました。

参考情報

<u>参加者</u>	技術士	11名
	教員	2名
	若手社員	1名
	学生	7名

過去のテーマ一覧

2021 島根県の東部と西部の人口比を同じぐらいにするには？

2020 GO TO 〇〇キャンペーン

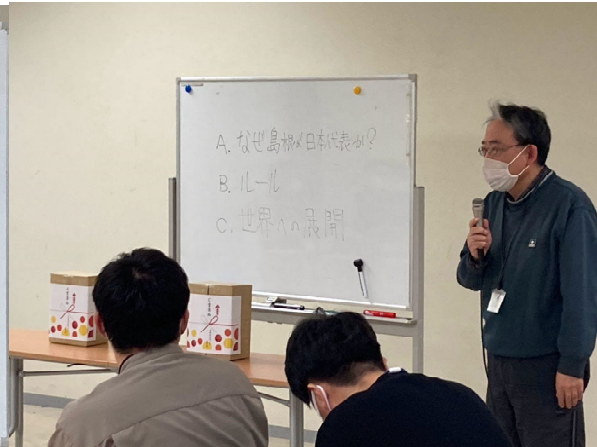
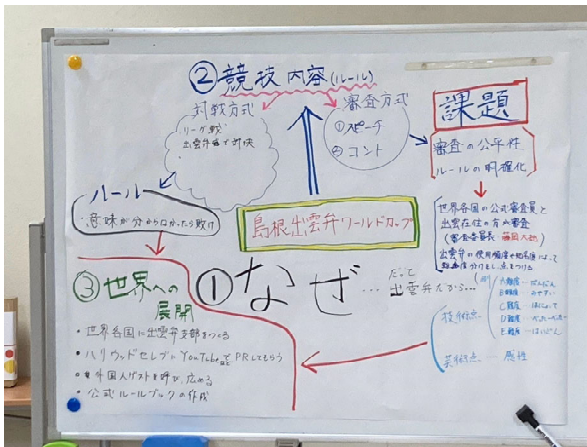
2019 東京オリンピック！どの種目を島根県に

2018 災害時にどうやったら避難してもらえるか

2017 島根のイッピンをメジャーにするには？

2016 自分が住んでいる（いた）地域について考えよう

当日の様子



配布資料と参加特典

